

北近畿タンゴ鉄道生活交通改善事業計画に関する協議会 開催結果

1. 日 時

令和6年8月19日（月）10時15分から11時15分まで

2. 場 所

宮津市福祉・教育総合プラザ 第1コミュニティルーム

3. 出席者

委員33名（うち代理7名）
オブザーバー1名（うち代理1名）
（別紙 出席者名簿参照）

4. 当日資料

別紙のとおり

5. 議 題

第1号 令和5年度事業報告について
第2号 令和5年度収支決算について
第3号 令和6年度実施計画に係る主な取組の進捗状況について

6. 主な意見

〈第1号 令和5年度事業報告について〉

○ 特に意見無し。

〈第2号 令和5年度収支決算について〉

○ 特に意見無し。

〈第3号 令和6年度実施計画に係る主な取組の進捗状況について〉

○ 観光列車「はなあかり」について、地域と連携しながらぜひ成功させたい。

○ オーバーツーリズムの未然防止についても趣旨に賛同でき、ぜひ協力したい。海の京都を訪れる観光客の総量が増えることを期待している。

○ いずれも魅力的な企画だが、連携に欠けるのではないか。各施策から丹鉄に誘導する試みができないか。

○ 施策がユーザーの求めているものになっているのか疑問を感じた。丹後地域の魅力を利用者自らに見つけてもらい、企画乗車券の提案を募るなど、企画段階から

取り込みを図られたい。

- 鉄道・船・バスを乗り継ぐのは、土地勘のない人には難しい。公共交通だけで周れる地域だということを経験してほしい。外国人向けに外国語での発信や意見聴取も良いと思う。
- 施策を行う際には事前の情報発信が重要だ。鉄道や高速バスの車内で乗り継ぎ情報を発信するなど検討されたい。
- 混雑緩和の取組を実証で終わらせないためにも、結果の検証をされたい。
- 外国人は手荷物を預けることに抵抗がある人が多い。日本の輸送の安全性も含めて情報を届けることが大切であり、海外代理店との連携をしてほしい。
- 交通系 IC は導入費が億単位と聞くが、府県外の人にはやはり不便に感じているようだ。IC が使えず乗降に手間取る乗客を見かけ、乗客にも乗務員にも負担だと感じた。補助金の活用も考えながら、インフラ整備に取り組むべきではないか。
- 交通系 IC カードについては、導入費用の高額さもさることながら、すでに九州の一部地域で見直しが始まっていること、外国人にとってクレジットカードのタッチ決済が好まれることも踏まえ、真に必要なか議論が必要だ。
- 与謝野町では令和 7 年度の与謝野駅 100 周年に向けて、委員会を作って活動している。7 月にイベントを行った際は、親子連れなど大勢が訪れ、好評だった。11 月に第 2 回、桜の季節に第 3 回イベントを行い、7 月頃に本イベントを開催したいと思っている。
- ブルーインパルス展示飛行の際、岩滝口駅から乗ろうとしても 1 両編成では満員で、積み残しになってしまったと感じた。
- 自社車両も借りた車両もすべて投入し、往路は大きな混乱なく輸送できた。しかし、飛行時刻の 1 時間繰り下げにより、準備していた長編成車両の出発に終了時刻が間に合わなくなり、混雑が悪化した。さらに落雷も重なってしまいご迷惑をおかけした。今後の教訓としたい。
- オーバーツーリズムの未然防止については、全国でも各地が手探りで実施している状況であり、ぜひ何が上手くいったか結果を示してほしい。
- 駅や路線の 100 周年での活性化は素晴らしいことだが、ぜひ 100 周年の後も継続して取り組んでほしい。